

アメリカンビュー



アメリカ大使館公式マガジン

2020 ISSUE 02



特集

前進のためのパートナー 障害者権利擁護団体が
名古屋米国領事館と共に手を取り歩んできた道のり

自由と公正をすべての人に：
アメリカのLGBTIの権利向上

米国人の人種問題の議論を支援する博物館



PARTNERS FOR PROGRESS, 前進のための パートナー

手を取り歩んできた道のり
障害者権利擁護団体が
名古屋米国領事館と共に



2018年ハンディマラソンでシェイファー首席領事と参加し、6位でゴールした辻直哉さん

およそ50年前、世界で初めて障害者のための自立生活施設がカリフォルニアに開設された。そしてちょうど今から30年前に、障害のあるアメリカ人法（Americans with Disabilities Act、以後“ADA”と表記）制定により公民権運動にあらたな章が書き記された。その活動のともし火は太平洋を渡り、ここ名古屋の先駆的な障害者の権利擁護団体であるAJUにも届いている。そこには米国領事館とともに手を取り合い、歩んできた道のりがあった。

深いルーツ

A JUの歴史は1971年までさかのぼる。当時、名古屋で障害を持つ人々のグループとその支援者が集まり公共交通機関やその他の社会サービスへのバリアフリー化が唱えられていた。車いすでアクセスできる公衆トイレや電車のプラットフォームがまだ無かった時代である。彼らはのちに名古屋で長年活動していたイエズス会の宣教師による障害者の権利運動である「愛の実行運動」(Aino Jikko Undo)に加わり、その名を冠した団体AJUを設立し障害者の生活環境の向上のため取り組んできた。



内海千恵子さん。米国内の視察先となったカリフォルニア州バークリーでは、車いすスポーツを指導している男性（中央右）に話を聞いた。2016年4月

AJUがこれまでに築き上げてきたものには、サマーキャンプ、車いすセンター、障害者の働く場となるワイナリーなどがある。中でも1990年に開設された社会福祉法人AJU自立の家は、重度の障害を持つ人々の自立生活と介助生活のバランスのとれた施設である。

そのAJUのメンバーに内海千恵子さんと辻直哉さんがいる。彼らは名古屋の米国領事館と共に協力し、東京、大阪間に位置し1500万人の人々がいるここ中部日本で、障害者の権利に対する意識向上に尽力してきた。

目を開かせてくれた2つの単語

内 海さんは10万に1人と言われる難病の脊髄性筋委縮症を乳幼児時代に発症。2016年に領事館の推薦により米国務省の文化交流プログラムであるインターナショナル・ビジター・プログラム (International Visitor Leadership Program、以後“IVLP”と表記) で渡米し、「インクルーシブ教育」をテーマに米国内の学校などを視察した。帰国後もAJUでの車いすセンターの活動に加わり、自身についてメディアや講演を通じ、現在多くの人々へ発信し続けている。

IVLPではワシントン、ニューヨーク、サンフランシスコを3週間かけて訪問した。滞在中最も印象に残ったのが、「ラーニング・ディファレンス」(learning differences) という言葉を知っ

たマンハッタンの学校である。そこで彼女は多様性の力をあらためて理解し、障害という定義で縛られない環境を目の当たりにしたという。またワシントンではADAの歴史などについて深く学ぶことができたそうだ。カリフォルニアのバークリーではAJU自立の家の目指すところでもあった障害者自立生活センターも訪れた。米国滞在を通して感じたのは、公共交通機関での席の利用のしかたなどの実際の身近な生活の中で、ADAの存在が大きく、障害者が権利を主張することにためらいを感じさせないことだと言う。さらに日本では障害者の権利意識がまだ不足しているのではないかと続ける。その一方で、日本は人工呼吸器をつけて就学している子供がいたりする融通のきく環境もある。米国を訪れたことでそれぞれの現状を肌身で感じ、良いところ、改善できるところが見えてきたそうだ。

擁護者とモデルの二役

辻 直哉さんは九州で20代の時にバイクでの交通事故から脊髄損傷を負い車いすを使用することになった。1998年入院していた施設から名古屋のAJU自立の家に移った。はじめての自立生活に困難を経験しつつも、その後大学に進み、現在はAJUの事業の1つであるヘルパー派遣の管理を行う。また自ら設立したNPO法人「チャレンジド」の理事長を務めるなど障害者の自立にむけて精力的に活動を続ける。

辻さんは2014年に大使館主催の全国規模の講演会の一環で米国の障害者の権利活動家が名古屋を訪れた際に、在名古屋米国領事館とはじめて協力することになった。その後もAJUは領事館とともに2つの講演会を共催。2018年の米国のビジネスコンサルタントであるジョイス・ベンダー氏を迎えた講演会では、障害者雇用が企業にもたらす経済効果などについて彼女から力強いメッセージが発信された。辻さん

はそれらの経験はADAの重要性について深く知るもので、大きな刺激となったと言う。その後AJUでは、記念行事にも参加し、世界中から集まってきた障害者と交流や意見交換をし、現在もオンラインでの交流を続けているそうである。

名古屋の隣にある国

A JUが支援し、1984年にスタートさせたハンディマラソン。これは車いす使用者と健常者がともに競技に参加できるもので、走る人、歩く人、車いすに乗る人などさまざまな参加方法で名古屋のシンボルであるテレビ塔を周回する。大会が郊外にひきこもりがちな障害者に参加の機会をつくり、また障害者が多くの人々の目にとまることで、社会における障害への関心を高めることを目指した。そのマラソンに名古屋の米国領事館からは外交官達や領事館職員が2015年から毎年参加してきた。辻さ

んは車いすを押され、街中をともに走っていることに、とても感動を覚えたという。これまでにこのような形で米国政府とのかかわりは無かつたが、日本に居ながらにして、アメリカをとても身近に感じるきっかけになったようで、「ドラえもんのどこでもドアを手にいれた気分！」と笑顔で語ってくれた。

辻さんはAJUを基盤に平等なアクセスと平等の権利について多くの人に伝えていきたいと意気込む。そして、名古屋の米国領事館には必要な時は常に手を差し伸べ、時には後押ししてくれるることを望んでいると続けた。その声に応えるためにも、領事館ではAJUおよび中部日本における障害者の権利を擁護するその他の支持者の立場に立って、社会の理解を促し、交流を深めていくことが重要であろう。領事館はドラえもんのように「どこでもドア」は持たないが、これからもより多くの人々に扉を開く努力をし続けていくことは間違いない。



ジョイス・ベンダー氏を迎えた障害者雇用における日米の現状と課題についての講演会。2018年4月16日

国務省の 海外建築物管理局、

在日米国大使館の 一部を修復

State Department's Bureau of
Overseas Buildings Operations
Restores Components of U.S. Embassy Tokyo



国務省の海外建築物管理局（OBO）は、5月の全米保存修復月間に、海外にあるアメリカの歴史的建築物に敬意を表しています。OBOの役割は、国務省の外交政策達成のため、安全で頑丈、かつ機能的で耐久性のある米国政府を象徴する施設を提供することです。この組織は、海外289カ所にある建築物を管理しています。その中でも在日米国大使館では、大変ユニークな保存修復計画が実施されています。



写真上／庭園の噴水のタイルを修復する修復技術者 (@Elizabeth Gill Lu)

写真右／公邸正面玄関にあるブロンズ紋章にワックスをかける修復技術者 (@Elizabeth Gill Lu)



1923年の関東大震災で東京が甚大な被害を受けた後、国務省は大使館の施設を再建し、東京における外交の範囲を拡げることにしました。

米国政府は、新しい米国大使館、大使公邸、職員宿舎の設計を建築家アントニン・レーモンドとハロルド・ヴァン・ビューレン・マゴニグルに依頼しました。公邸や付随する施設の設計図が提出されたのは1928年のことです。

マゴニグルは、敷地のレイアウトと一巡する通路の設計図を描き、大使公邸の東側には円形の噴水を特徴とする一段下がった庭園を配しました。噴水の底面には、さまざまな形状や大きさの陶器のタイルが敷き詰められ、外周に行くにつれ濃い色のタイルが使われました。中央には蓮の花の形をしたブロンズの水盤が配置されました。今日現存するのは、大使公邸と庭園のみです。

OBOの文化遺産室（CH）は、文化遺産に関する教育、その維持管理や保存を通して、アメリカの歴史や建築物の保存修復に努めることを使命としています。これには、考古学的な遺跡、景観、建築物、美術品などの文化遺産が含まれます。2017年、CHのチームは、大使公邸の景観を復元するための保存修復プロジェクトをスタートさせました。噴水から水は噴き出るもの、底面のタイルやブロンズの蓮の花は修復が必要でした。この芸術的な噴水を保存修復することは、公邸の玄関に施された金属細工や庭園の木製ベンチの保存修復と共に不可欠でした。噴水に関しては、CHの修復技術者らが現地の職人らと共にタイルとブロンズの修復計画書を作成しました。

プロジェクト中、蓮の花の水盤を鋳金協同組合の方々に調査してもらった結果、鋳物師の山崎寅蔵の作品であることが判明しました。

さらに大使館職員によって、山崎寅蔵の2人の孫娘を探し当てることができ、故人となった祖父の記念碑的な作品を現地で見てもらうことができました。この山崎の傑作は公邸の敷地内にあったため、これまで彼女たちがそれを目にする事はありませんでした。第2次世界大戦中、金属類は戦争のため供出されましたが、この水盤は大使館の敷地内に設置されていたために、供出を免れ残されました。たいへんユニークな保存例です。

山崎寅蔵の家族は、1993年まで続いた山崎の会社が水盤製作の発注を受けたことは知っていたものの、このブロンズの蓮は戦争中に溶かされてしまったものと思っていた。山崎は半年かけてこの450キロもあるブロンズの水盤製作に取り組んだそうです。戦間期の日本を生き残ったこのブロンズ彫刻を保存修復するプロジェクトは、家族からの詳しい話により大きな影響を受け、この文化的な場に立つ作品に铸物師の名を復活させることができました。

噴水のブロンズの水盤とタイルの復元作業は、2018年に完了しました。米国大使館がモダニズム建築へと生まれ変わる設計図が承認されてから80年後のことでした。日本の文化・芸術の素材やシンボルが合わさることで、この直線的なモダニズム建築に柔らかさが加わりました。山崎寅蔵の後継者らは、偶然の出会いによって、関東大震災後に大使公邸に製作された蓮の彫刻の水盤を始めとする美術品に新たな光をあてることになったのです。

「OBOとCHは、世界中にある米国大使館や領事館の保存修復に力を入れているだけでなく、そのプロセスで、歴史を形成し、また保存修復活動と現在の社会風潮との橋渡しとなるユニークなストーリーを発見することにも情熱を傾けています」とOBO局長のタッド・デービスは言います。「国務省の歴史的・文化的に重要な施設の豊かな歴史を振り返る時、在日米国大使館の大公邸や、世界中にあるその

他多くの知られざる素晴らしい建築物や文化遺産、そしてそれ一つ一つの保存修復作業に休むことなく取り組んできた人々を思い起こします。私達は、全米保存修復月間中だけではなく、日々誇りを持って、この保存修復活動に取り組んでいます」



噴水中央に立つブロンズの水盤と刻まれた铸物師の名前 (@Elizabeth Gill Lu)

今年は国務省のセクレタリーズ・レジスター（重要文化建造物の登録簿）の作成開始から20周年にあたり、来年は米国政府が初の在外公館として「タンジール・オールド・レゲーション（モロッコ・タンジールにある旧公使館）」を取得してから200年を迎えます。

OBOのCHや国務省のセクレタリーズ・レジスターに関する詳しい情報は以下のサイトをご覧ください。

<https://www.state.gov/overseas-buildings-operations/>



この記事は、ブログ「アドベンチャーズ・イン・プリザベーション(AiP)」に掲載された記事を翻訳したものです。AiPは、世界の建築遺産の保存修復活動を目的としたボランティア休暇を提供する組織です。非営利団体としてAiPは、人々と保存修復活動を豊かな体験型旅行や実践的教育を通じて結び付けています。AiPは、歴史的建造物を愛し、世界を旅し理解を深めることに強い思いを持つ2人の女性によって2001年に設立されました。世界中から支援したいという声が届くようになり、歴史的建造物をボランティアで修復してもらうということに大きな可能性を示しました。この実践的な保存修復プロジェクトは、地域社会の環境および経済的持続可能性に貢献しています。



写真上／庭園の奥から望む噴水と大使公邸 (@Elizabeth Gill Lu)
写真下／大使公邸内の螺旋階段 (@Elizabeth Gill Lu)



米国人の 人種問題の 議論を支援する 博物館



2017年、ワシントンの国立アフリカ系米国人歴史文化博物館に入場する訪問者。米国人が人種について語るのに役立つオンラインポータルを開設した（©Pablo Martinez Monsivais / AP Images）

最

初に人種というものを意識させられたのはいつですか？そして子どもの頃、どのように人間の違いを理解していましたか？

スミソニアン博物館群の国立アフリカ系米国人歴史文化博物館が新たに立ち上げたオンラインポータル「人種について語る（Talking About Race）」には、このような質問があります。このウェブサイトは、米国人が人種差別と、個人や社会をむしばむその害について建設的な会話ができるよう支援するツールを提供しています。

同博物館は、人種差別はあからさまであったり、微妙なニュアンスのものであったり、分かり

にくいものもあると指摘します。このウェブポータルは、教育者、親、保護者、そして人間の平等性を訴える人々が、人種差別の原因を特定する手助けし、差別と闘う方法を提案します。ユーザーには、白人であるということ、反人種差別主義者であること、そして人種や人種差別の歴史などのトピックに恐れず飛び込んでいくことを奨励しています。

「ポータルには、ビデオ、ロールプレイング演習、対象を絞った質問など、啓発や議論に役立つ豊富なリソースが用意されています」と、博物館のスペンサー・クルー暫定館長は言います。「人々がこのサイトを利用し、もっと気軽に正直な対話をし、自らを省みてもらえればと考えています」

えています」

あるセクションでは、利用者は、自身の人種差別に対応し、それを止めるまでの指針を与えられます。その上で利用者には、何が反応を引き起こしたかを考え、感情的な反応と身体的反応がどう現れるかに注意を払うよう求めます。利用者は、自分の偏見を明らかにし、人種差別的な考えが自身の日常生活に与える影響を考えるよう促されます。

同博物館は、5月25日、ミネアポリスで逮捕中に警察官に殺された46歳の黒人男性ジョージ・ Floydさんの死後、全米に広まった抗議活動に対応してポータルの立ち上げを1ヵ月早めました。

事件に関与した警察官は解雇され、殺人罪や他の重罪で起訴されています。

「人種について語る」ポータルは、2人の共同開発者、キャンドラ・ フラナガン教育・学習担当ディレクターとアンナ・ハイドリー幼児教育担当ディレクターの10年近くに及ぶ作業の成果です。

「ふさわしい時にこの国にポータルを提供できました。ジョージ・ Floydさんの殺人事件をめぐりさまざまなことが起きており、人々がそれぞれの方法で事件を処理しているからです」とハイドリーさんは言います。「これまで白人の多くは、人種について毎日のように考え方を向ける必要がありませんでした。そういう特權を持った人たちにとって、新たな目覚めとなったのです。より多くの白人が、自覚し憤慨しています」。彼女はこう付け加えました。

このポータルは、人々が人種差別を理解する役に立つものの、それだけでは問題解決に

十分ではないとフラナガンさんは言います。むしろ、全ての人が他の方法で時間をかけて、制度的な人種差別の撤廃にコミットすべきだと言います。

「これは時間のかかる作業で、生涯をかけた仕事になります」。フラナガンさんはこう述べました。

しかし、2016年の開館以来、来館者から寄せられた質問で最も多いのは、人種について、特に子供たちにどう話すかというものでした。このポータルはその第1歩になるとクルー館長は言います。

「その会話がいかに難しいか認識しています」とクルー館長。「しかし、ジム・クロウ法（公共の場所で黒人を白人から人種的に隔離した）と白人至上主義という奴隸制度の遺産にいまだに苦しみ続けている国において、心機一転やり直しその傷口をふさぐには、この困難な会話を避けて通ることはできません」



ミネアポリスの殺人現場に作られた壁画と追悼所を訪れジョージ・ Floydさんに黙とうを捧げる人々（©Bebeto Matthews / AP Images）

仕事と 家族と 相対性理論

ヒラリー・渡辺千里・ダウナー
在沖米国総領事館首席領事

Service, Family, and the Theory of Relativity



岡谷市の平福寺を訪れたヒラリー・ダウナー。渡辺家の遠い祖先がまつられている

幼

い頃の記憶だが、祖父が「浦島太郎」の話を使ってアインシュタインの特殊相対性理論と一般相対性理論の説明をしてくれたことがあった。乙姫のいる竜宮城から村に戻った漁師は、留守にしていたのはほんの数日と思っていたが、実は長い年月が流れていたことに気づく。

「これは地球から相対速度で宇宙に行く人に起こる現象だよ」と祖父は教えてくれた。地球に戻ってくる宇宙飛行士は数時間しか経っていないと感じていても、実際に地球側では長い年月が経過している。私は浦島太郎の話を悲しいとは思わなかった。なぜなら、宇宙旅行への期待と時空が歪んでいることに心を奪われていたからだ。もしかすると、アインシュタインの理論を小学生の頭で必死に理解しようとしていたからかもしれない。

この話は私にとって別の意味合いを持つ。私の家族は数世代にわたり、日本を離れては戻るということを繰り返してきた。私も例外ではない。在沖米国総領事館首席領事に就任した3年前、日本にルーツを持つものとして、自分のユニークな経験と家族の歴史をもって日米関係に貢献したいと考えていた。

子供の頃の日本の印象

私

は1975年、カリフォルニア州南部にあるサンタバーバラ近くのゴリータという町で生まれた。家の日常語は英語であったが、おば、おじ、いとこは、父、祖父、祖父母とほぼ日本語で話をしていたため、小さい頃から日本語を聞いていた。3歳、6歳、9歳、11歳の夏休みは日本で過ごした。ある夏、父、祖父と松本城を訪れ、そこで2人から「我が家家のルーツはこのあたりにある」と聞かされ、日本とのつなが

りを意識するようになった。

私の先祖は長野県岡谷市の出身だ。封建制度が廃止される前まで高島藩が治めていた場所だ。先祖のうち3人は大臣を務めている。曾曾祖父の渡辺千秋は宮内大臣、千秋の弟で、千秋の息子を養子にした国武は大蔵大臣と通信大臣、曾祖父の千冬は司法大臣であった。



岡谷市より諏訪湖を望む。
2019年に現地を訪れたヒラリー・ダウナーが撮影

しかし子供の頃の一番の思い出は、なんといっても東京だ。街のネオンから色とりどりのタクシー、コンクリートミキサー車、ゴミ収集車にいたるまで、すべてが刺激的であった。中でも一番印象に残っているのが電車だ。1980年代の東京を走っていた通勤電車は、クロムメッキに色帯が一本入った今のようなつまらないデザインではなかった。緑、青、オレンジ、黄色、赤色と鮮やかな色に身を包んだ車体だった。くすんだ土色のシャパラルの低木林に覆われた小さなカリフォルニアの町に

比べたら、東京は別世界であった。

13歳の時、父が国際基督教大学で教壇に立ち、カリフォルニア大学東京スタディセンターのディレクターになったため、東京に2年間住むことになった。西町インターナショナルスクールに通った。学校は基本英語であったが、日本語が必須科目で毎日授業があった。

15歳の時にサンタバーバラに戻ったが、とにかく東京に戻りたくて仕方がなかった。大学に進学する唯一の目的は、日本への留学だとかなり本気で考えていた。そしてその夢を実現した! 1995年から1年間、交換留学生として父のかつての職場、国際基督教大学に通った。

物理学者の「浦島太郎」解釈

私

の祖父はフランス政府給費生として、1933年からパリに留学、物理学を学んだ。そこで祖母と出会ったのだ。2人は1937年にドイツのライプツィヒに移る。父が生まれたのは2年後の8月17日、ドイツがポーランド侵攻に向か準備を開始し、ヨーロッパで第2次世界大戦の火ぶたが切られようとしていた頃だった。第1次世界大戦中のドイツでの略奪や破壊を覚えていた祖母は、このような事態を避けたいと思い、祖父と一緒に日本に行くことに同意した。父は生後数週間で日本に行き、3人は戦時中を日本で過ごした。

戦争が終わると、3人はアメリカに移住。父は祖母に続き、1954年にアメリカ国籍を取得したが、祖父はアメリカに移住した後も日本国籍を維持した。日本人であることをとても誇りに思っていたのだ。この祖父の存在が私に大きな影響を与えた。祖父は科学を教えてくれただけでなく、日本人としてのアイデンティ

ティーを私に意識させてくれた。

家族の絆としての2国間関係

国

際基督教大学での留学生活を終え帰国した私は、カリフォルニア大学サンディエゴ校で政治学を勉強した。その後エール大学大学院に進学し、国際関係学で修士号を取得した。大学1年生の時、国務省の採用担当者が大学に来て外交官の仕事について説明してくれた。自國のために働きながら冒険に満ちた生活を送れるこの仕事に心惹かれた。また日本の外務省で大使を務めていたおじの存在も私を国務省に導くことになった。2003年11月、私は国務省に入省した。日本に赴任する前は、ワシントンDCでの本省勤務に加え、インド、シリア、イラク、インドネシアに勤務している。

日本で過ごした4年半から気づいたことがある。日米の「揺るぎない」同盟関係について語る時、これは単なるキャッチフレーズではないということだ。揺るぎない関係とは日本との血縁を表す。私だけでなく、国務省や軍、またそれ以外の分野で日米関係に携わる仕事をしている多くの日系人が日本と血のつながりを持つ。私たちは日本にルーツがあることから、政府レベルだけでなく個人的にもつながっている。私は日米関係を大家族のようにとらえている。それは仕事をする上でのモチベーションとなっている。

沖縄では、自分の経験や生い立ちから、沖縄に駐留する米兵と地元住民との架け橋になりたいと努めてきた。先祖のふるさとである長野県岡谷市とは、再びつながりを持ち、地元のお祭りに参加する大切さをあらためて実感、地域の一員となることができた。例えば、岡谷周辺で昔から続く祭事に御柱祭があ

る。この祭りでは人々が切り倒した木に乗り、急な斜面を滑り落ちる。気弱な人向けのお祭りではないが、地元の人が沖縄市のエイサー祭りや那覇市や読谷村で行われる伝統的な綱引き大会を話す時に、彼らとつながりを築くきっかけとなっている。米軍基地がある沖縄の町や市とつながりを築くことで岡谷の人々に思いを寄せ、長野の小さな町で引き継がれて

時が全く流れていないように感じられる。東京の公園で遊んでいたあの頃が、昨日のことのように思い出される。大ざっぱに言えば、相対性理論では重力が時空をゆがめる。ある意味、家族への思いという「重力」が私を日本に引き寄せ、時間の流れという感覚を圧縮したのだろう。これは、父、祖父、そして遠い先祖の人たちも同じであったろうと思っている。



きた価値観を大事にしたいと思う。

沖縄赴任が終わりに近づく中、相対性理論についてより深く考えるようになっている。動きの影響、つまり重力があるため、ある場所の時間が別の場所と相対的に異なる速さで流れているように感じる。私は相対性理論をこのように理解している。私が初めて日本に来たのは3歳の頃であった。40年が経った今、いろいろなことがあったにもかかわらず、

岡谷市の旧渡辺家住宅で、曾曾曾祖父である渡辺斧蔵が描いた絵を見学するヒラリー・ダウアー（左）。2016年3月撮影

自由と公正を すべての人に アメリカの LGBTIの 権利向上

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、およびインターフェックス（LGBTI）の人々の権利を守る運動は、アメリカの大きな伝統であるマイノリティーの権利擁護運動の一つです。

このマイノリティーの権利擁護は、ユリシーズ・S・グラント大統領が1871年公民権法に署名し、成立したことで動き始めました。今日では全ての階級の人々の権利擁護を目的とする世界初の法律として知られていますが、この法律は白人優位主義団体であるクー・クラッカス・クラン（KKK）の暴力行為からアフリカ系アメリカ人を守る目的で作られました。

20世紀初頭の工業化により地方から都市部へと多くの人々が移動し、LGBTIのコミュニティがアメリカ各地の都市部で形成されました。

1924年には、シカゴにソサイエティ・フォー・



ヒューマンライツという、アメリカで知られている最古のゲイ権利団体が誕生しました。その後、1950年には初の全米ゲイ権利団体となるマタシン協会が、1955年にはレズビアン権利団体のピリティスの娘たちが設立されました。

1962年、イリノイ州は全米で初めて、合意の下の同性の成人同士の私的な性行為を非犯罪化しました。

1969年6月27日のストーンウォールの反乱は、LGBTIの人々の権利を守る運動の転換点となりました。これを機に、比較的少人数の活動家たちによる運動から、大規模な運動へ

と発展していったのです。

1973年、米国精神医学学会は、同性愛を精神障害の分類から除外しました。そして、1979年10月14日のレズビアンとゲイの権利のためのワシントンマーチには、約7万5千人のゲイ、レズビアン、バイセクシュアル、トランスジェンダーの人々、さらに異性愛者の支持者らが参加し、LGBTIの権利問題は全国的な問題となりました。

この30年間、何百万人のアメリカ人たちが、隣人、同僚、友人、そして家族など、自分たちがよく知る多くの人々が

写真左／1989年6月25日のゲイ・アンド・レズビアン・プライド・パレード中、ニューヨークのゲイバー「ストーンウォール・イン」の前を通る男性と「ゲイを支持するおばあちゃん」というサインを掲げた傘の下に座る高齢の母親。20年前の1969年、ここでLGBTI権利運動の発端となった暴動が起きていた（©AP Images）

写真下／1977年6月8日のマンハッタンでのデモ行進を始める前にシェリダン・スクエアでデモをするLGBTIの活動家たち（©AP Images）

LGBTIであることを知るようになりました。これに加えて、LGBTIの人々がアメリカのテレビや映画でポジティブに描かれてきたことにより、LGBTIの人々はより社会的に受け入れられるようになり、彼らの米国民としての平等の権利が支持されるようになりました。

最近の世論調査では、特に若い世代のアメリカ人がLGBTIの人々の権利を圧倒的多数で支持しています。

2015年6月26日の米連邦最高裁の歴史的判決のおかげで、今や同性婚は全ての州で合法化されています。この日、最高裁は50の全ての州が同性婚を許可し、他の州で行われた同性婚も認めなければいけないという判決を下したのです。



● アメリカ人外交官と
バーベキュー

「ブリスケ・バーベキュー」 アメリカ人外交官と バーベキューの 概要編

AMERICAN DIPLOMATS AND BARBECUE

早川達夫

米国大使館
広報・文化交流部



バレットさんが大使館宿舎で調理したブリスケ（写真提供：バレット・バンバス）

アメリカ人とバーベキュー

アメリカを代表する食文化「バーベキュー」。テキサス、メンフィス、ノースカラライナ、サウスカラライナ、カンザシティーなど、さまざまな地域で独自の手法が凝らされ、各地で最高のバーベキュー作りを競う大会が開かれます。肉の種類、スパイスの調合、薪の種類、火加減と調理時間にまで、地域や作る人それぞれにこだわりがあるので

す。2015年に米国大使館の招聘で来日したテキサス・バーベキューの「ピットマスター」ウェイン・ミューラーさんはこう言います。「初めて会うアメリカ人との会話でトラブルになりやすい話題。それは政治、宗教、バーベキューだ」

米国大使館・領事館に勤務する外交官にもバーベキュー好きはたくさんいます。そしてやはり十人十色のこだわりを持ってい

ます。ここでは「アメリカ人外交官とバーベキュー」という視点から、その背景にあるアメリカの文化や歴史について紹介していきたいと思います。

テキサス・バーベキュー「ブリスケ」

現在米国大使館の農産物貿易事務所に勤務するテキサス州出身のバレット・バンバスさん。「子供の頃、裏庭にお父さんがトレー

ラーに乗った大きなスモーカー（バーベキューグリル）を作ったんだ」と、嬉しそうに語ります。テキサス・バーベキューと言えばビーフ。特に牛の肩バラ肉の塊を塩とコショウのシンプルなスパイスで10~15時間かけてスモークする「ブリスケ」がポピュラーです。ちなみに直火で肉等を焼く調理法を“Grilling”と言い、それよりも低い温度で長時間スモークする場合は“Barbecuing”と言



バレット・バンバスさん。ご自慢のピットとともに
(写真提供:バレット・バンバス)

スモーカーを作ったばかりの頃、お父さんのバーベキューは肉が硬くて味も今一つだったそう。それでも高校生だったバレットさんは、一緒に火の番をしながら親子で何度も試行錯誤を重ねて、今では家族の集まりには欠かせない家庭の味を作り出しました。肉の大きさにもよりますが、最初の5~6時間は肉をスモークすることで、肉をカットした時の外側周辺にピンク色の「スモークリング」が出来ます。その後アルミホイルで包み、さらに低温調理することで肉の組織が分解し、また肉汁を閉じ込めることで硬い肩バラ肉も柔らかでジューシーな味わいになるのだそうです。

BBQ Capital of Texas

テキサスには“BBQ Capital of Texas”と呼ばれる街「ロックハート」があります。バレットさんは、「テキサス・バーベキューを味わいたかったら、ぜひロックハートに!」と勧めます。オースティンもバーベキューで知られています。バレットさんがインターネットを通じてバーベキューを教わったという「師匠」が、オースティンで大行列を作る事で有名な人気バーベキュー店のオーナーシェフです。テキサス・バーベキューは、大きな牛肉の塊(子豚のバラ肉も可)を現地の薪(通常はポストオーク)で何時間もモクモクとスモークします。そのため、郊外にポツンといきなり美味しいレストランがあったりするのです。アメリカの郊外を旅する際には、美味しいバーベキューレストランを探すというのも楽しいかもしれませんね。

います。両者はよく混同してバーベキューと表現されますが、似ているようで違った調理法です。

「カウボーイ」は「テキサス人」とほぼ同じ意味だと言っても過言ではありません。それは、「ひとつ星の州(テキサス州のニックネーム)」のシンボルであり、平原で牛を放牧していた時代にまでさかのぼることができます。牛肉生産では全米トップを誇るテキサス州。畜産は120億ドルを超える規模の産業に発展しています。冷蔵庫が広く普及する以前は、大量の肉をどのように保存するかが南部の牧場主の大きな課題でした。安価な部位を低温でスモークし、美味しく日持ちする肉にする技術は、時代を超えて引き継がれてきました。その伝統が「ブリスケ」を生み出したのです。

バーベキューと家族・友人

「バーベキューをする時は、いつも生まれ育ったテキサスのこと、そして家族のことを思い出すんだよ」と、バレットさんは話します。バレットさんは今でも休みの日に、外交官宿舎にあるバーベキュースモーカーを使ってテキサス・バーベキューを作るそうです。テキサス・バーベキューのスパイスの王道はなんと言っても塩コショウで、肉の美味しさを最大限に引き出します。そこにバレットさんはパプリカやガーリックパウダーなどの独自のスパイスを調合。お父さんに教わったレシピを元に自分なりのアレンジを加えた手法でバーベキューを楽しんでいます。また、昨年末テキサスに帰った際には親戚や友人が集まり、お父さんとバーベキューを楽しみました。その時は7つのブリスケを調理して、2つはその日のディナー用に、2つは冷凍して保存用に、そして残りの3つはご近所でお世話になっている友人に日頃のお礼の気持ちにと「お裾分け」をしたのだそうです。バーベキューが、地域の繋がりを深める役割も果たしているのです。

テキサス・プライド

「お父さんが作ったスモーカーだよ」と、写真を見てくれたバレットさん。さすが手作りとあって、市販ではなかなか見られないようなユニークなバーベキュー・グリルです。そのスモーカーの上に乗っている二つのTの文字。「これはTexas Tech University(テキサス工科大学)のTとTだよ」と教えてくれました。バレットさんのお家はバレットさん自身のみならず、お父さん、そして弟さんまでテキサス工科大学出身。バーベキューを通じて、テキサスに根付いた家族のテキサス・プライドを感じました。

バレットさんのバーベキューのお話から、お父さんとの思い出、家族や友人との絆、そして出身地テキサスへの思い入れを感じることができました。バーベキューという食文化を考えることで、アメリカ人らしさが見えてくる気もしました。次回は米国大使館政治部のマーガレット・シャンさんとご主人のトッドさんにお話を伺い、メンフィス・バーベキューを皆さんに紹介したいと思います。

編集部注：この記事の続編は、以下のページでご覧になります。

マーガレットさん、トッドさん夫妻の「メンフィス・バーベキュー」編
<https://amview.japan.sembassy.gov/american-bbq-memphis>



ジョンさんのサンタマリア・バーベキュー「トライチップ」編

<https://amview.japan.sembassy.gov/american-bbq-santa-maria>



バレットさんのお父さん自作のバーベキュー・スモーカー(写真提供:バレット・バンバス)



輝きの3ヶ月— アイオワ大学 国際創作プログラムに 参加して

新井高子
詩人、埼玉大学准教授

Three Inspiring Months
at the University of
Iowa's International
Writing Program

目を閉じれば、走馬灯のように、アイオワシティの晴れやかな空と町、アイオワ大学国際創作プログラム(IWP)の親しき顔が浮かんでくる。幸運なことに、2019年秋、わたしはそのプログラムに招待された。日本の女性詩人の参加は、約20年ぶりのこと。

夢のような3ヶ月間だった。今年のIWPには、アジアは、香港、韓国、台湾、中国、インドネシア、ミャンマー、シンガポール、ネパール、日本



IWP参加中のイベントで
詩を朗読する著者

本。中近東とアフリカからは、トルコ、イスラエル、モロッコ、ジンバブエ、アルジェリア、マラウイ、ナイジェリア、エリトリア、ナミビア、南アフリカ。ヨーロッパからはチェコ、ラトビア、リトアニア、ギリシャ。ラテン・アメリカからはメキシコ、アルゼンチン。合計25カ国、28人のIWP writers、詩人、作家、批評家、劇作家、放送作家等々が集まつた。既存のヒエラルキーを越え、あらゆるエスニシティや文芸ジャンルを公平に捉えて応援するIWPの姿勢は、したたかな知性のかたまりとも言える。この先、何が文学になるのか、何がその価値を牽引するのか、もはやだれにもわからない時

IWP 2019の
参加writers
一同とともに



代。その複雑さを見すえた上で、文学の「未来」をできるかぎり展望しようとしている。

さらに、学生時代に戻ったかのように屈託ない交流をかわすIWP writersは、自作朗読、講義、パネル・ディスカッションなど、発表の場も担当。それらの催しには、アイオワ大生だけでなく、文学に関心のある市民たちも数多く来場したが、2008年にユネスコの文学都市に指定されたアイオワシティには、土地に根ざした文学への愛がある。

ともあれ、わたしにとっては、講義やパネル・

ディスカッションを英語ではるのは厳しいハードルだった。ほかのIWP writersが、時々ジョークで沸かせながらユニークな発表をし、会場からの質問にも即妙に答えているのを見たときは、絶望に近い衝撃をうけた。体力のつづく限り、writersが集うパブに通い、わいわいおしゃべりし合ったのは、わずかでも英語を上達させたい意図もあったのだ。

それらの体験を通して学んだことを一言にすれば、国際的な説明能力と言つていいように思う。語学力のみならず、何を主張する作品な



書店でのIWP一般公開イベントで
ジェフリー・アングルスとともに自作詩を朗読する

のか、どんな思想や興味のもとに書いているのかを示す能力。アイオワの学生も市民も、わたしの作品や経験を知らない。そこにひとりで立って、何を伝えたらいいのか。

広大なアメリカで自作朗読が親しまれているのも、おそらく同じ理由からだろうが、じぶんの作品は、まずみずからが声に出して届け、その背景にある姿勢を説くことが求められた。聴衆が興味を持てば、本が売れ、そのうち批評へつながっていく。

幸い、わたしは、ジェフリー・アングルスの優れた編集手腕によって、新しい英訳詩集『Factory Girls』を、前衛的な翻訳詩の版元として知られるAction Booksから滯在中に出版することができた。そこで、自作詩の朗読とともに、日本の地方都市、群馬県桐生市の織物工場で生まれたこと、その産業の栄枯盛衰を幻想的な叙事詩にしたためてきたことを説きつつ、いわゆるスタンダードな「日本語」を越え、土地言葉の響きやリズムをとり入れることで、新しい詩のことばをつくる挑戦を語った。言語は、そもそもnational(国別)でもlocal(地域別)でもなく、individual(個人別)なものではないかという思考が、わたしにはある。

また、監督の鈴木余位と組んで企画制作し

た映画『東北おんばのうた——つなみの浜辺で』の暫定版がひとまずまとまり、催しの一つとして上映できたことも思い出深い。この映画は、拙著『東北おんば訳 石川啄木のうた』の出版を通じて知り合った、岩手県大船渡市のご年輩女性(おんば)のドキュメンタリーだが、アイオワ大学准教授のケンダル・ハイツマンとの授業「日本文学翻訳演習」の受講生が英語字幕を作ってくれたのである。上映会には100人近い観客が来場し、大盛況だった。

さらに何より、WhatsAppなどでいまも連絡をとり合っているIWP 2019、ファミリーと呼び合うほど親密になった面々との出会いとつき合いは、なんと輝かしかったことか。

IWPのディレクター、クリストファー・メリルに無事の帰国を連絡すると、日米に頑丈な橋を架けてくれたタカコに感謝すると返信が届いた。日本からのバトンが続くことを祈りつつ、IWPの最大の支援者であり、渡航を助成してくれたアメリカ政府にこの場を借りて感謝したい。

新井高子（あらい たかこ）
群馬県桐生市生まれ。慶應義塾大学大学院修士課程修了。詩人。埼玉大学准教授。詩誌「ミテ」編集人。2019年9月より3ヶ月間、米国国務省の助成でアイオワ大学国際創作プログラム(IWP)招聘ライターとして米国に滞在。詩集に『タマシイ・ダンス』(未知谷、小熊秀雄賞)、『ベットと織機』(未知谷)等、編著書に『東北おんば訳 石川啄木のうた』(未来社)、英訳詩集に『Factory Girls』(Action Books, Jeffrey Angles 編)等がある。

＼豆夢が教える♪／



アメリカ人のように 話してみない？

シリーズ第16弾

Home Idioms

みなさん、「おうち時間」楽しんでいますか？ 今回紹介するのは「home」に関するイディオム！ 人によってhomeはさまざま。生まれ育った場所だったり、家族がいるところだったり。今住んでいる場所もhomeだよね。英語には、故郷やお家に関連する以外にも、homeを使った心情を表す表現がたくさんあるよ！ 今日はそんなフレーズを5つ紹介します★

Home is where the heart is

故郷をつくるのは最も大切な人や場所、心の居場所が我が家なり

Example

"I've had a lovely time visiting you,
but home is where the heart is
and I think it's time I went back."

あなたと素敵なお時間を過ごせたけど、
ふるさとはやっぱり家族や大切な人がいるところ。
だからもうそろそろ帰ろうと思うわ。

Explanation

最も大切な人や思い出がある場所が
故郷になるっていう意味だね！ 家族
や友人が故郷をつくるものというこ
のイディオム、ぜひ使ってみてね！

Home away from home

第二の故郷

Example

"Please make our house
your home away from home
when you are in town."

我が街にきたときは、うちを第二の故郷と思ってね！

Explanation

お家でなくても安心できる第二の故郷があるって
なんだか素敵。僕にとって日本はまさにhome
away from homeだよ！みんなが安心できる第二
の我が家はどこかな？



Shutterstock

Go big or go home

やるからには思いっきりやれ(そうでなければ帰れ)

Example

"You're going to the conference but you're not going to give a presentation?

Go big or go home!"

せっかくのあの会議に参加できるのに、
プレゼンしないつもりなの?
そんな中途半端では行く意味がないよ!

Explanation

「Go big」は全力で努力しろ!って命令形だよね。
それができないなら、諦めて「go home」、つまり家に帰るしかない。なかなか厳しいお言葉! やるかやらないか、その2つの選択肢しかないから、やるからには思いっきり!という意味だね。みんなもチャンスは無駄にせずに掴んじゃえ☆



Shutterstock

There's no place like home

一番居心地がよくて幸せな場所は我が家

Example

"After his long trip, Roger walked into his house, sat down in his favorite chair, and happily sighed.
"There's no place like home."

長旅が終わりロジャーは帰宅し、お気に入りの椅子に座って嬉しそうにため息をついた。「わが家にまさる所はない!」

Explanation

帰ってきて一番安心するのはやっぱり我が家だよね。お気に入りの椅子や、いつものマグカップがあると安心するよね。居心地の良い自分の家を表現するときにこのイディオムを思い出してぜひ使ってみて!



Shutterstock

Hit close to home

痛いところを突く、身につまされる

Example

"My teacher's stomach cancer diagnosis hit me close to home because my aunt died of the same thing."

叔母を胃がんで亡くしたので、
先生の胃がんという診断は他人事とは思えない。

Explanation

この表現の「home」は、お家ではなくて比喩的に感情を表すんだ。他の人の不運を自分自身と思い重ねて心が痛むときに使えるイディオムだね。的確なアドバイスや忠告が身に染みるときにも使えるよ。



在日米国大使館 広報・文化交流部
アメリカンビュー編集部よりお知らせ

インターン募集

広報・文化交流部では、写真撮影や記事の執筆など広報活動のお手伝いをしてくれる学生インターンを募集します。応募締め切りなど詳細についてはこちらをご覧ください。

<http://amview.japan.usembassy.gov/about-amview>

ストーリー募集

アメリカや日米関係にまつわる皆さんのストーリーを記事にしませんか。アメリカ留学旅行中の新たな発見、日米間の架け橋として活躍している人の紹介など、皆さんのがシェアしたいお話をメールで編集部 (TokyoAmView@state.gov)までお寄せください。英語でも日本語でも受け付けています。



メリカン・ビューは在日米国大使館 広報・文化交流部が発行するマガジンです。アメリカの文化や社会を日本の皆さんに紹介し、日米関係にまつわる問題や出来事を考察しています。本誌の送付を希望される学校や団体は、使用目的を明記のうえ下記のメールアドレスまでご連絡ください。ご意見・ご要望をお待ちしています。下記のアドレスにお送りいただくか、ウェブ版のコメント欄から送信してください。

在日米国大使館 広報・文化交流部報道室 アメリカン・ビュー編集部

〒107-8420 東京都港区赤坂 1-10-5

E-mail TokyoAmView@state.gov

WEB <http://amview.japan.usembassy.gov>



* 本誌記載の記事に述べられている意見は、必ずしも米国政府の見解を表すものではありません。



#BlackLivesMatterと
米国内の社会的正義を
目指す運動について討論する
オンライン講演会を開催

ジ

ユーンティーンスである6月19日、駐大阪・

神戸米国総領事館と米国大使館が、現在米国で起きている人種や不平等をとりまく問題の理解促進を目指すプログラムを開催しました。オンラインで行われたこの講演には、アフリカ系アメリカ人の歴史・文化に詳しい同志社大学の落合明子教授と、日本在住のアフリカ系アメリカ人作家、バイエ・マクニール氏がゲストスピーカーとして参加し、アフリカ系アメリカ人が置かれる社会的状況や、ジョージ・ Floyd 事件の背景、そして全米各地で発生した抗議活動などについて解説しました。全国から 1 万 4 000 人以上が視聴し、講演の後には活発な質疑応答も行われました。